

薄曇り。30日(土曜日)の入場者は14万5800人と開幕以来の人出だったが、31日も日曜日とあって人の流れは絶えることなく続いていた。場内の各コーナーは見物人でかなりの混雑ぶり。ただ今回は見学コースを広く取っているためか、通路での混雑は前回ほどではない。平日よりも家族連れや中高年、若いカップルが数多く見られ、賑わいを見せていた。

伝統と個性 強烈に 3Dシアター 1時間待ちも SUBARU

巨大な鉄棒に串刺しされたようなレガシィワゴンが、回転しながら来場者を誘う。その背景にある140席(ほかに車椅子用2席)の3Dシアターも大人気。来場者の滞留時間が長いブースとして出品他社も注目。参考出品は11台と多く、新規格車の反響からか市販の軽自動車にも人気が集まっていた。

統一テーマは特に掲げていないが、伝統の4WD技術を中核に「走り」「安全」「環境」でスバルの個性を存分にアピールしている。人気の「スバル4WDシアター」は、実写やCGを駆使した3D画像と迫力あるサウンドで、レースの臨場感や4WDの魅力が楽しめる。上映時間は10分だが、休日には待ち時間が50分から1時間にも及ぶという。

車両展示も参考出品が11台と充実。このうちコンセプトカーは近未来のグランドツーリングワゴンの「FLEET-X」と、ハイブリッドシステムを搭載した軽自動車ベースの「ELTEN CUSTOM」。「FLEET-X」は外板にアルミを使用するなど素材の複合化による軽量化が特徴で、走りの充実と環境負荷の低減を大きなテーマにしている。ワゴン市場で確固たる存在感を示す同社だけに、幅広い



来場者を誘う回転式表示の「レガシィワゴン」



近未来グランドツーリングワゴン「FLEET-X」



軽ベースのハイブリッドシステム搭載の「ELTEN CUSTOM」

ボルシェ・デザイン社と共同開発のスポーツセダン「B4 BLITZEN」



年齢層の男性が発売時期を尋ねる光景が見られた。

レガシィシリーズでは、ショーのためにボルシェ・デザイン社と共同開発したスポーツセダン「B4 BLITZEN」が圧倒的な注目を集め、フラッシュの放列を浴びている。

また、新パーツブランドである「RFRB」のエアロパーツを装備したレガシィワゴン「SUPER RFRB II」も洗練されたフォルムでファンを魅了。

市販車では軽自動車の居住性の改善ぶりに驚く家族連れが少なくない。新規格になってすでに1年以上が経過したが、スバルブースにとどまらず軽コーナー共通の反響でもある。スバルではサンバーの「ディアス ワゴン クラシック」が人気を集めており、家族でシートに座ったり、価格を確認する人が目立つ。

来場者に聞く

千葉市の美浜区から親子4人で来場の豊村正則さんご一家。「子供たちが絵を見たいというんでね」と、幼児くるま絵画展の前で、地元千葉市内の幼稚園児の作品をじっくり観賞中。「なかなか夢があって、こうした展示も楽しいね」とにっこり。

ご本人の狙いはエコカーとコンセプトカーだそうで、「夢のある次世代車がいっぱい展示されているので、これからじっくりと見て回る」そうだが、横から奥さんが「私は絶対二輪車。大型のスーパーバイクをたん能したい」と意見が分かれ気味? 「スポーツカーは展示されているけれど、F1などレーシングカーをもっと展示してほしい」とは奥様の弁。



伝統と貫禄に呑まれる来場者 ロールスロイス/ベントレー

ロールスロイス唯一の輸入車「シルバーセラフ」は、全長5.4m、全幅1.9mの大型セダン。エンジンこそBMWのV12気筒だが、パルテノン風グリルとスピリット・オブ・エクスタシーの像、コノリーレザーとウォルナットの室内は、まさにイギリスの伝統そのものだ。このブースは、その近寄りたたい貫禄からか、遠巻きにして見る人が多いのが特徴だ。ベントレーは、スポーティさを増した「アルナージ」が展示され、自社開発6.75リッターの405psという数字に来場者が驚いていた。



スピリット・オブ・エクスタシーが輝く「シルバーセラフ」

若者たちの熱気に包まれるブース

フェラーリ

カーマニア憧れの的フェラーリのブースには、なかなか見る機会のないフェラーリの各車種が展示されている。中でも人気は「360モデナ」。レーシングカー的な6速セミオートマを装備する「360モデナF1」も発売され販売は絶好調という。東京モーターショーには、ワンメークレース用の「360チャレンジ」も展示され、フェラーリだけを見に来る若者も多い。モーターショー期間中にF1グランプリが開催され、フェラーリブースは大勢の来場者で異常とも思える熱気が渦巻いている。



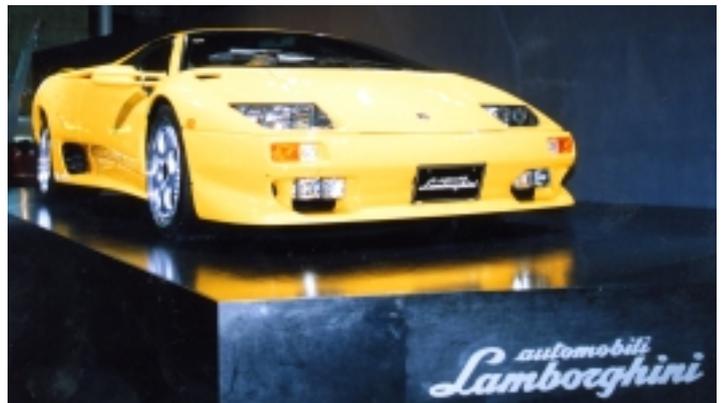
前から見た「360モデナ」の雄姿

カメラ・フラッシュが絶えないブース

ランボルギーニ

フォルクスワーゲングループとはいえ、離れた場所にあるランボルギーニのブースには、カメラのフラッシュが絶えない。開場直後から午後7時まで常に大勢の来場者が、前から横からためつすがめつ眺めている。

これほどの人気があるのは、展示車の「ディアブロVT」と「ディアブロSV」のスタイルが世界のどの車よりも魅力的なばかりでなく、最高速度300km/hに達する市販車のひとつであり、名実共に至高のスーパースポーツであるからだろう。



4輪駆動のスーパースポーツ「ディアブロVT」

Topics (第10回) お帰りは一般道か高速か



モーターショー会場からの帰途、どの道で帰れば渋滞がないか？ちょっと考えてしまおう。そんなとき場内5カ所に設置されている「道路交通情報」を是非どうぞ。

この交通情報はVICS(道路交通情報通信システム)を利用した渋滞情報。財団法人道路交通情報通信システムセンター(VICSセンター)が普及に努めているもの。一言でいえばカーナビ上に渋滞情報を提供するシステムのことだ。

VICSセンターは中央モールにブースを開設。平日でも2,000人以上の人が来るという。

このVICSの情報は中央モールのVICSセンターブース、西1ゲート出口手前、北2ゲート近くのめぐりあいの場などにモニターがあって最新の情報を提供している。中央モールのニューススタジオでも放送の合間にVICS情報を流しており、気を配れば渋滞情報が簡単に手に入る。

東京方面に帰るとき高速も一般道も混んでいたら、あえて高速を使う方がいいそうだ。VICSセンターのアドバイスでした。

世界最高クラスのダンス

次世代のポンドカーと言われるZ8とX5の2台のクルマが並ぶBMWのブース中央。床が回転するラウンドテーブル。そこが6人のダンサーのステージだ。踊りが始まると左右の観客席が埋まる。座れなかった人たちがステージを取り囲み、人垣ができる。新しいZ8に敬意を表するボンデージとよばれるプレミアムパフォーマンス。激しい動き。狭いステージ。息づかいが伝わってくる。思わず惹き込まれる。6人はチームGroup2kのメンバー。パフォーマンスとダンスの分野では数ある中の1~2位を争う最高クラスのチーム。ステージは1日5回だ。



31日の入場者数

181,300人

入場者数累計 1,038,000人